

令和8年9月10日
本巢市教育委員会 社会教育課

本巢市民スポーツプラザ施設再編に関するサウンディング型市場調査の 対話結果概要について

1. サウンディング実施の経緯

本巢市では、本巢市民スポーツプラザ再整備に関して、民間活力導入の可能性を含めた検討を行う予定です。

そこで、民間事業者等の皆様との「対話」を通じて、自由な発想に基づく新たな利活用に関する事業手法や民間事業者等の皆様が担える役割等についての考えを広くお聞きするためにサウンディング調査を実施しました。

本調査の結果を取りまとめましたので、その概要を公表します。

2. サウンディングの実施スケジュール

令和8年7月1日	サウンディング実施要領の公表
令和8年7月13日～令和8年7月30日	サウンディングの実施
令和8年9月10日	サウンディング結果概要の公表

3. サウンディングの参加事業者

総合商社：1社
教育・学習支援業：1社
建築物総合管理業：1社
スポーツ施設提供業：1社
建設業及びリース業：1社
建築設計・都市計画・デザインコンサルタント業：1社
以上 6社

4. サウンディング結果の概要

対話の対象項目	対話概要
プールに関する提案	プールについては、以下のような提案がありました。 ・既存構造の活用：既設プール構造を活かしつつ一部解体し、コスト削減を図る。 ・転換：「水遊び場」など、プールを壊さずに他の魅力ある施設へ転換。 ・部分活用：ウォータースライダーは撤去し、浅い部分は子ども向け施設として利用。 ・改修：メインプールは改修が必須。 ・民間連携：民間事業者との連携を検討。 ・屋内化：屋外プールを廃止し、屋内プールに改修。学校プールと公衆プールを両立させる。 ・跡地活用：プール跡地の活用方法も検討（他施設への転換、新施設の誘致など）。 ・差別化：既存の充実した施設（県施設）との兼ね合いから、大規模な大会向けに特化することは現実的でない可能性も考慮。
野球場・スタジアムに関する提案	野球場・スタジアムについては、以下の提案がありました。 ・複合化：子ども向け施設と複合利用 ・多目的利用：野球場だけでなく、サッカーなど他のスポーツ施設としての活用を検討（サッカーは野球に比べて維持管理費が低い可能性） ・活性化：人工芝の導入、サッカー場との複合により活性化し、防災機能も強化。 ・効率的運用：周辺の高校などとの連携事例を参考に、サッカー場との併用で効率的な運用。 ・拡張性：多目的グラウンドとしての利用状況や、他競技での利用・大会誘致の可能性を考慮し拡張性を検討。 ・練習場ニーズ：公式戦利用は限定的であるため、練習場としてのニーズに対応。
テニスコートに関する提案	テニスコートについては、以下の提案がありました。 ・増設：コート面数の増設を検討。 ・一体的整備：隣接地の土地買収・拡張による一体的整備。 ・連携：周辺施設でのテニスやサッカーの整備、練習場としての活用、民間企業や強豪チームを巻き込んだ議論。 ・課題：屋内コートの需要、練習場のニーズ、アクセス課題も認識。

対話の対象項目	対話概要
多目的広場に関する提案	多目的広場については、以下の提案がありました。 【フットサルコート】 ・ 差別化：民間施設と重複しない形で検討が必要。 ・ 相乗効果：隣接施設との相乗効果を期待。 【アーバンスポーツ施設（BMXなど）】 ・ 競技拠点化：競技拠点として活用を検討。 ・ 若年層へのアピール：「アーバンスポーツパーク」のような形で若年層にアピール。 ・ 国際大会誘致：BMX 国際大会出場選手育成など、地域で活躍する選手を活かした取り組み。
施設全体に関する提案	施設全体については、以下の提案がありました。 【利用者層の拡大】 ・ 特定のスポーツ施設に特化するだけでなく、子どもから高齢者まで幅広い層が利用できる施設設計。 ・ 年間利用者数 10 万人を目標とし、年間 10 万人を目標とする集客計画が必要。 ・ 既存の「もとまるパーク」と差別化を図り、重複しない魅力的な施設を目指す。 【気候変動への対応】 ・ 将来的な温暖化を考慮し、日陰や冷房設備が整備された「クールスポット」の導入が重要。 【通年利用】 ・ 屋内施設と屋外施設の組合せにより、通年利用可能な施設を目指す。 【LED 化】 ・ 学校および公共施設の LED 化事業の導入。 【周辺エリア活用・活性化】 ・ もとまるパーク周辺は立地・アクセスに優れ、家族連れや各種利用者が集まりやすい環境。 ・ 周辺エリアを含めた一体的な整備と、民間活力（民間企業、テナント、宿泊、トレーラーハウスなど）を活用した集客・収益化のアイデアを検討。 ・ 単なる現状維持にとどまらず、住宅誘導やインフラ整備など、長期的な街づくりと投資的效果を見据えた議論。

対話の対象項目	対話概要
施設全体に対する提案	【周辺エリア活用・活性化】 ・ 周辺の小中学校との連携により、地域全体の相乗効果を図る。 【事業費・事業方式】 ・ PFI 方式の場合、一般的に一定規模以上の事業費が必要。 ・ 建設費の高騰、設計施工分離型、PFI と従来の方式のバランスを考慮。 ・ 多様なスキームを検討し、SPC 設立や地域要件にも配慮。 【建設・改修スケジュール】 ・ 2029 年建設開始、2031 年本格稼働案が提案されているが、前倒しも検討し、スピード感を持って進行。 ・ 資材高騰が続く中、予算が膨らむリスクを考慮。 【長寿命化計画】 ・ 数年後の施設改修計画を立て、長期的な視点での管理・活用。 【法的規制】 ・ 今後の都市計画変更やルール見直しを前提に進める必要がある。 【費用対効果】 ・ 膨大な費用がかかるため、費用対効果を慎重に検討。 【利用者ニーズ】 ・ 利用者の希望を最大限反映しつつ、施設の規模や利用制限の中で最適な案を模索する。 【連携】 ・ 市と民間事業者、市民の協力が不可欠。 【ICT 活用】 ・ 予約システムなど ICT を活用した利便性向上や情報発信について柔軟な提案を検討。 【収益性】 ・ 年間利用者数 10 万人以上を目標に設定することで、施設の事業収益性が見込まれると推察。市の財政負担軽減に貢献し、利用者へのサービス向上を目指す。

5. サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングにより、老朽化した既存施設を、市民の幅広いニーズに応える持続可能な多機能型スポーツ施設として再生・活用することが民活導入の大きな方向性であることが把握できました。

具体的には、民間活力を最大限に導入するため、PFI 手法等の多様なスキームを検討しながら、利用者サービス向上、市の財政負担軽減を両輪に持続可能な運営体制を確立することが重要な方向性に値すると考えています。

今後は、施設ごとの特性（プール・野球場・テニスコート、アーバンスポーツ施設など）に応じた改修・転用・新設の具体策を策定し、年間を通じて多世代が利用できる魅力的な施設を目指します。

周辺施設や地域全体との連携を強化し、単なるスポーツ施設に留まらない地域活性化の拠点としての役割を追求するとともに、法規制や環境制約、省エネ、気候変動への適応も考慮した計画にも配慮したいと考えます。

基本計画策定に向けて、詳細な調査・検討を進め、関係者との継続的な協議を通じて合意形成を図り、利用者ニーズを最大限に反映した施設整備を推進します。